

第10回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和2年8月26日（水）午後2時30分～午後4時30分
- 2 場所：おだわら市民交流センターUMECO 会議室7
- 3 出席者：前田委員長、益田副委員長、日下部委員、福田委員、加藤委員、善波委員、林委員、吉澤委員、杉山委員、菰澤委員
事務局：府川課長、森係長、岡崎主査
- 4 資料：
 - ・次第
 - ・資料1 提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会の見直し案
 - ・資料2-1 市民活動団体と学校との連携に関するアンケート集計結果
 - ・資料2-2 諮問事項「市民活動団体の力をまちづくりに生かす」改善案（市立小中学校）
 - ・資料2-3 第9期小田原市市民活動推進委員会報告書骨子案

5 会議内容

■ 開会

■ 議題（1）提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会について

委員長：それでは、議題（1）提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会について、事務局からご説明をお願いしたい。

（事務局 資料1に基づいて説明）

事務局：第5回UMECO祭り実行委員会の副委員長でもある委員より、今年度のUMECO祭りについてご紹介いただきたい。

委員：昨年度までは、参加団体や一般市民でUMECO館内がいっぱいになるような形で開催していた。しかし今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響でそうした形では開催できないため、実行委員会において検討した結果、UMECOのホームページ上で、オンライン開催することとした。期間は、11月15日から12月末までの予定である。内容としては3つあり、まず、参加団体の紹介映像である。各1分程度で、UMECOに提出された動画や写真をつなげて作成する。

次に、繋がるビデオである。これは、おさるのかごやを参加者が歌ったり演奏する動画をつなげて作成する。

最後に繋がるライブであるが、本来の開催予定日であった11月29日に、ZOOMを用いて参加団体が交流する。3部構成で、1部では自己紹介、2部では体験談、3部では体操や発声などを検討している。

当初は、実行委員会内でもオンライン開催に消極的な声も聴かれたが、ZOOMなどができるようになると面白さを感じるようになった。なお、今回のUMECO祭りは、小田原市制80周年記念事業の一つとして実施することになっている。

委員長：それでは、まず報告会についての説明で何か意見や質問はあるか。

報告会の当日のスケジュールであるが、委員は第1部または第2部のいずれかには必ず出席するということであった。これまでは、委員会の会議として一度全員で集まった上で、報告会に参加していた。委員が一堂に会する時間はないということでのよいのか。

事務局：詳細は今後の検討としたいが、これまでのように報告会前には会議を行わない想定であるものの、あくまで委員会の一環として当日はご出席いただく。事前のすり合わせが必要な場合は資料の事前送付等でご確認いただき、当日の事務連絡などは間の休憩時間中に行えればと考えている。

委員長：当日、報告会前に委員が集まれないということなので、例えばその前の委員会時にできるだけ詳細に打合せをしておくとか、早めに第1部、第2部のグループ分けをしておくなど、入念な準備、調整が必要と感じる。

委員：参加者数は50人程度までということであるが、委員は含まれているのか。また、委員1人あたりいくつの事業の評価コメントを作成するのか。

事務局：委員を含めて50人程度としたい。評価コメントについては、1人あたり約3事業を想定

している。

委員 長：細かいことだが、司会についてはどのようにするのか。

事務局：司会についても詳細は未定であるが、前は地域政策課長が総合司会を務めていた。

委員 長：できるだけ多くの人に参加していただきたいが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止も併せて考える必要がある。発表団体についても、第1部と第2部の両方に参加してもらうか、片方だけとするかなど、検討の余地がある。

事務局：発表団体についても委員と同様、自身の含まれるグループのみ必ず参加、もう一方は任意としたいと考えている。

委員 長：どちらかに参加ということだと、これまでは冒頭に1回だけ行っていたあいさつをどうするか、等の問題も出てくる。ほかにも、実施にあたっては調整すべき事項が多数出てくると考えられるので、次回以降の委員会では実施要領等を検討したいが、見直しの方向性としては、現時点では案のとおりとしてよろしいか。

参考に、秦野市の類似の報告会については先日実施されたが、団体の発表者は2人までとし、一般の参加者はなしで、委員会に対して報告を行い、後日動画をホームページ上で公開するという形をとった。今後の状況によっては、本市においてもこのような検討が必要となるだろう。

(異議なし)

委員 長：それでは、本案をもとに、今後詳細な内容を検討するものとする。

続いてUMECO祭り等について、質問等はあるか。

ホームページ上でUMECO祭りの専用ページを作り、クリックすると紹介動画等が表示されるというイメージでよいか。

委員：団体紹介動画と繋がるビデオでは、それぞれ1本の動画を作成してあらかじめ外部のサイトにアップロードしておき、UMECOのホームページからリンクで参照できるようにする。その中の特定の団体を選んで途中から再生できるか等、今後検討していく。なるべく多くの団体を見ていただけるよう、音楽や構成を工夫してまいりたい。

事務局：今年の3月に実施した市民活動応援補助金の審査に係るプレゼンテーションについては、一般の方は入場できなかったため、動画を撮影して市ホームページ上で公開したが、リンク先の外部サイトでは頭出しが可能であったが、市ホームページに埋め込んだ方はその機能が使えなかった。

委員：全ての団体の、それぞれの箇所に頭出しをすると煩雑になるし、できればいろいろな団体を見ていただきたいので、ある程度まとめて頭出しを設定するなど検討する必要があると思う。

委員 長：繋がるライブというのは、どのようなイメージなのか。

委員：あらかじめ、参加希望者にZOOMのパスワードを伝え、各自のパソコンやスマホを使って指定の日時にログインする。主催者がホストとして進行し、参加者の音声を普段はミュート、発言時にオンにするなど操作する。

委員：参加者はお互いに話し合うことができるのか。

委員：発表者のほか、発言したい人はホストに合図して音声をオンにしてもらうなど、なるべくスムーズに話ができるよう検討している。

委員 長：参加者が多いと、画面上の一人あたりの画像が小さくなり、進行役に負担がかかる懸念はある。

委員：発表者とは事前に打合せをする予定である。

委員：当日話し合うテーマ等はあるのか。また、時間はどのぐらいを予定しているのか。

委員：最初は全員で自己紹介、次は数団体による活動にあたって工夫していることの発表、最後に数団体による体操等の実演、というようにテーマを設定する。全3部で、3時間程度を予定しており、途中の入退場は自由である。

委員 長：繋がるビデオの楽曲をおさるのかごやとしたのはどのような理由か。

委員：小田原駅でも流れているなど、市民に親しまれており、大人も子どもも楽しめる考えた。

委員 長：UMECO祭りは、この状況でもできることを工夫して開催するということであるが、

本委員会としても、市民活動の推進のために現状でできることを話し合う必要があると考える。検討すべきことなど、委員より意見があれば伺いたい。

委員：自治会活動も市民活動も、私が関わっているものについては縮小している状況である。大きなイベントではなく、時間差で集まってもらうなど工夫する必要があるが、時間もかかるし人手も増やさなければならず、苦慮している。どの団体も手探りの状態と感じている。

委員：本来であれば夏に市民会館で開催するはずであった大きなイベントが中止になったことから、先日、UMECO会議室で団体の会員だけで朗読会を実施した。マイクカバーを一人2枚ずつ配布し、フェイスシールドを着用し、窓は1時間に1回は開けて換気し、相互の距離もとるよう注意して実施したが、これは会員の中だからできたことで、どのケースにも適用できるのかはわからない。しかし、気持ちが落ちてしまうと活動がなくなってしまうかもしれないので、今は続けることが大事と感じている。

委員長：一度途切れると、元に戻すには多くの労力が必要だろう。私の勤める大学では、これまで決まった曜日の決まった時間に教室で講義を受けていたのが、オンデマンド型ということで学生があらかじめ資料をダウンロードし、好きな時に講義の動画を視聴でき、さらに何度でも繰り返して見返すことができるようになった。市民活動においても、これまではイベント当日に参加できなければそれで終わりだったのに対し、今後は後日動画で視聴できるようにするなど、このオンライン化の流れはメリットにもなり得る面を持つ。例えば、UMECOの会議室稼働率は現状では下がっていると思うが、動画撮影用の機材及び場所を貸し出すといったことも考えられる。市やUMECOである程度の費用が負担できるとなると良いだろう。UMECOに来れば活動の様子を撮影できる、という仕組みをつくり発信できれば、活動自体が途切れることも防げるのではないか。もちろん、その場に居合わせることにより感じられる空気感は得難いものである。イベントや会合を現地で実施できないから、活動自体を取りやめるとするのは防がなければならない、代替的な方法を検討する必要がある。

委員：神奈川県において、NPO法人を紹介する冊子を作成した。その所管課が、市民活動ができていない現状に鑑み、企業と団体をつなげる試みを行っている。企業がNPO法人に実施してほしいことをとりまとめ、団体がエントリーし、企業とつながることができるというものである。今だけでなく、コロナ禍が収束した後の活動の土台づくりという意味合いもあると思われ、市でも同様の取組ができれば良いと感じた。

委員：企業の方からの、団体をサポートしたいという声は増えているのではないか。企業によっては、各営業所単位で熱心に地元への貢献活動を行っていると聞いており、働きかけるメリットは大きいかもしれない。

委員：今回のUMECO祭りでは、支援いただける企業にも繋がるビデオに出ていただくことを検討している。動画で見れば支援してくれていることが実感でき、つながりができると考えている。

委員：小田原市内の企業ということだと、関わりのある範囲では市民活動のサポートに熱心なところはあまりない印象である。横浜や川崎に比べると温度差があると感じるので、県と同様の取組への市内企業からのニーズは少ないのではないか。

委員：県の取組に参加している企業は、CSRに熱心な大手が多いように感じる。

委員長：難しい面も多いが、委員会の任期の最後で提出する報告書には、その影響の大きさから「コロナ禍おける市民活動支援」等の内容を盛り込むべきであろう。

委員：新しい生活様式に対応した市民活動のあり方といったものを盛り込まないと、報告書としては不足感があるのではないか。

委員長：コロナ禍という前提に立っていないと、報告が成り立たなくなってしまうとも感じる。冒頭を含めて、報告書に記載する必要があるだろう。

■ 議題（2）諮問事項「市民活動団体の力をまちづくりに生かす方策について」

委員長：次に、議題（2）諮問事項「市民活動団体の力をまちづくりに生かす方策について」、事務局からご説明をお願いしたい。

(事務局 資料 2-1、2-2 に基づいて説明)

委員長：まず、学校へのアンケートに係る説明があった。委員から、何か補足等はあるか。

委員：今年にはコロナ対応もあり、校外学習もこれまではできていない。秋以降、校外ボランティアの協力も受けながら、少しずつ再開されるだろう。しかし、感染症対策をとりながら進める必要がある。鍵盤ハーモニカの講習会、二宮尊徳のお話を聞く会など、従来の一括ではなくクラスごとの実施等、工夫しなければならない。また、3カ月間の休校のために、授業スケジュールもタイトである。

小学校と中学校で異なる部分もあるが、UMECOの役割については、生涯学習センターと同じものと認識されていることが多い。FAXや郵送で市役所各課や各種団体から出前授業の案内等が非常に多く届いており、その中でニーズに合うものを各学年の担当者が見つけ、相手方と調整するが、一度つながりができれば継続することもある。先日、中学の校長先生とも話をしたが、市民活動団体が協力できることについての周知が不十分ではないか、という意見があり、校長会や役員会でPRすれば効果があると思われる。地域の力を借りて子どもを育てるということは新しい指導要領にも記載されているので、市民活動やUMECOが学校側に認知されれば、団体と学校のマッチングが可能になるのではないかと。

次に、学校側で負担する費用の件であるが、交通費や謝礼は支出が難しい。材料費については、子ども達一人一人に還元されるものであれば、教材費として保護者から集めることができる。学校にある学用品については使用でき、また必要なものが事前に分かれば、学校で購入するということも可能である。どうしても謝礼等必要であれば、学校の予算ではなくPTA会費から支出するという方法もあるかもしれない。

委員長：ただいまの杉山委員からの補足も踏まえ、何か意見や質問はあるか。

設問1について、中学校では団体や地域外の個人ボランティアから協力を受けていないという結果に驚いた。対象期間を令和元年度に限定しているが、毎年同じような傾向なのか。

委員：中学校では、地域のボランティアを重視しており、令和元年度に限ったことではないと思われる。それぞれの学校に地域のボランティアの登録があり、その中で協力を得ていたり、防犯教室など関係機関から派遣を受けたりしているようである。

委員長：そのような中で、設問8では全ての中学校において、市民活動登録団体名簿が活用される可能性があるかと回答している。仕組みさえつくれば、関係が深まる可能性は大いにあると感じる。校長先生の集まる会議に、市民活動団体が出席してPRすることは可能か。

事務局：近年では、校長会にUMECOと地域政策課が出席し、夏休みボランティア体験学習のPRを行っている。今までは、中学校向けには生徒自身がボランティア活動を始めてもらえるようなアプローチが主であり、コーディネート機能に係る事業のPRは学校向けには重視してこなかった。

委員：校長会または役員会にUMECOの方へ出席いただき、Hello!UMECOのPRをしていただくことは可能と思われる。ただ、今年度は感染症への対応で議題が非常に多く、資料配布のみになってしまうかもしれない。

委員：団体として、中学校で総合学習の授業に伺ったことがある。担当の先生の一人が知り合いで、そのつながりで話があったことだった。担当の先生方は講師の選定に大変悩まれていると思うので、多忙な先生方にHello!UMECO等がツールとして届くように説明を添えるなど工夫し、流れをつくってあげると良い。なお、その総合学習の際の費用については、謝礼等はなしで、材料費分を学校側に負担していただいた。結果、ワークショップで作成したものは学校のものになったため、生徒達は自宅に持ち帰ることはできなかったと伺っている。

委員：設問3の協力を受けた事業で、全て市民活動団体とマッチングできるかは疑問がある。例えば防災訓練や交通安全教室は、警察や消防に相談する学校が多いかもしれない。また、PTAの成人学級についてもマッチングが難しいと感じた。小中学校が求める協力団体の姿をもう少し掘り下げないと、実現は難しいのではないかと。クラブ活動の指導があれば、見つけやすいかもしれない。

- 委員長：地区社協と学校との関わりはどうか。
- 委員：社協では、地区社協や老人クラブ等、福祉の面で地域と関わっているが、小中学校との直接的なつながりはあまりない。
- 委員長：事務局に確認だが、今回の学校へのアンケートについて、さらなる分析の余地はあると考えるか。また、アンケート結果も報告書に盛り込むのか。
- 事務局：母数があまり多くないため、クロス集計等で一定の傾向を見出すことは難しいのではないかと考えている。各校の回答内容をUMECOと共有し、個別に団体とのマッチングに活用するのが良いと考えている。結果については、報告書に盛り込みたいと考えている。
- 委員長：引き続き、改善案に係る詳細について、事務局からご説明をお願いしたい。
- 事務局：前回会議で、諮問事項に係る改善案をご検討いただいたが、その中で、Hello!UMECOの配布先やホームページのレイアウトについて、ご意見をいただきたい。まずHello!UMECOの配布先についてであるが、全体の発行部数3,000部を、市内公共施設に約500部、各地区まちづくり委員会委員に約800部、各地区公民館に約130部、UMECO登録団体に約400部、市内商業施設等に約200部、その他学校やNPO法人等にも配布を予定している。また、A4版のほかに、携帯用としてA5版を作ることになっている。
- 次に、自治会総連合とUMECOのホームページについてであるが、相互にリンクを貼るとともに、自治会総連合側のページの「総連合からのお知らせ」カテゴリ内にHello!UMECOのお知らせ記事を追加する。UMECO側のページについては、「UMECOからのお知らせ」カテゴリ内に、同様の記事を掲載する。ページ内に冊子の画像データを掲載するとともに、総連合の同ページからのリンクを作成し、可能であれば問合せしやすいようにメールフォームを設置したい。その他、集約方法等を検討する必要はあるが、地域課題の一覧表を掲載したり、地域でのイベントに協力してくれる団体を募集する記事を掲載できるよう、UMECOと調整してまいりたい。
- 委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。
- 自治会総連合とUMECOの相互リンクについて、どのように設置するのか。また、今まではなぜリンクがなかったのか。
- 事務局：自治会総連合側からは、市やNavioのバナーの下にバナー付きのリンクを、UMECO側からは、右下の方にリンクがまとまっているので、バナーなしのリンクを設置したいと考えている。今までリンクがなかった理由としては、名簿の作成など前段階の検討を行っていたこと、自治会総連合のホームページのメインターゲットが「自治会活動に興味のある市民」であり、地域活動団体ネットワーク形成事業をPRしたい層とは若干異なっていたことが考えられる。今回は、Hello!UMECOの紹介を「総連合からのお知らせ」のカテゴリ内に掲載してはどうかと考えている。
- 委員：そのカテゴリ内に新しい記事が増えると、Hello!UMECOの紹介が下の方向に移動して見えなくなってしまうのではないかと。
- 委員長：常に一番上に固定できないのか。
- 事務局：Hello!UMECOは年1回更新であり、近年の当該カテゴリの更新頻度から、完全に見えなくなることは考えづらいが、設定で一番上に固定できるかは確認したい。ただ、自治会総連合側もPRしたい事業はあると思われるので、調整させていただく。
- 委員長：パソコンとスマホでレイアウトが変わることもあるので、検討にあたっては留意する必要がある。ホームページへの反映はいつごろを予定しているのか。
- 事務局：詳細な時期は未定だが、Hello!UMECOの紹介及び相互リンクは、冊子の発行が9月中を予定しているため、そこから早めに反映できるようにしたいと考えている。その他の改善については、地域課題の集約方法等の調整が必要であるため、さらに先になると思われる。
- 委員：Hello!UMECOにはA4版とA5版があるということであったが、A5版を作成するのは何故か。また、A5版はA4版を縮小したものということではよろしいか。
- 事務局：UMECO側からの提案で、持ち運びに便利であり、活用されやすいよう工夫したとのことである。A4版は、A5版を縮小したものである。

委員：冊子を活用する方は、いろいろな情報を見比べながら検討しているので、A5版だと印象が薄くなってしまうかもしれない。A5版は文字などが小さいということもあるので、ほかの情報冊子と同じA4版の方が良いとは思いますが、公共施設等から持ち帰る際には小さい方が便利かもしれない。

委員長：引き続き、第9期委員会報告書の骨子案について、事務局からご説明をお願いしたい。
(事務局 資料2-3に基づいて説明)

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

新しい生活様式における市民活動推進施策について、項目化すべきとは考えるが、新型コロナウイルスの影響があったことをどのように調査、分析するか。緊急的に、UMECO登録団体にアンケート調査を行うことは可能か。

委員：現状でどの程度活動ができているのか、ある程度の傾向を裏付けるものがないと、報告書に記載するのは難しいのではないか。

委員長：活動が停滞しているとか、イベントが開催できないとか、印象として言えることは間違いないが、小田原市の現状を表すためには、簡素なものでもいいのでアンケート調査等を実施すべきと考える。後継者がいないため活動が停滞していた団体は多いが、さらにコロナ禍も合わさって活動をやめてしまうところも出てくるだろう。

事務局：次回委員会は10月下旬を予定しており、その会議上で案を検討するのでは遅くなってしまうので、郵送等で随時ご確認いただき、内容が確定し次第団体に調査票を送付するのが良いと思われる。

委員：UMECOだよりの登録団体への送付が9月末だと聞いているので、それに同封できれば経費が抑えられる。

委員長：それでは、事務局において案を作成し、郵送等で各委員にご確認いただき、修正案を正副委員長で最終確認した上で、UMECOと調整し、9月末のUMECOだよりに同封することとする。また、報告書については引き続き次回以降、諮問事項の検討状況に応じ、詳細な文案等を検討することとする。

■ その他

委員長：その他について、事務局から願います。

(事務局 今後の会議日程の確認及び調整)

部会	・・・令和2年10月8日(木)午前	市役所
第11回委員会	・・・令和2年10月28日(水)午後2時30分	UMECO
第14回委員会	・・・令和3年3月14日(日)終日	UMECO

(市民活動応援補助金第二次審査)

■ 閉会